

バイバイ原発京都訴訟原告団原稿

1. 京都訴訟の報告（萩原）

皆さま、京都訴訟への温かいご支援、本当にありがとうございます。

提訴から13年。私たちは「国の責任」を認めさせ、「避難の権利」を勝ち取るために闘ってまいりました。しかし去る1月22日、最高裁判所は私たちの訴えを退ける「上告棄却」の決定を下しました。

この決定は、人生を根こそぎ変えられた避難者の叫びを、司法が門前払いしたことを意味します。国の責任を免罪し続ける司法のあり方に、私たちは心の底から憤りを感じています。ですが、私たちはここで立ち止まりません。最高裁の門は閉ざされましたが、私たちの歩みはこれからも続きます。

この不当な決定に対し、私たちがどう抗議し、何を求めていくのか。これから読み上げる声明文と、原告一人ひとりの声に、どうか耳を傾けてください。

2. 訴訟団声明（別紙）

3. 個人の訴え

①（堀江）

以上が訴訟団の声明です。

裁判は終わっても、私たちの闘いは終わりません。

原発事故をなかったことにし再稼働へ突き進む無責任な社会を、次の世代に手渡すわけにはいかないからです。

私には4人の孫がいます。子どもたちの顔を見るたび、未来を守ることは今を生きる大人の責任だと痛感します。

6.17判決という負の遺産、政府に付度し役割を放棄した司法を、私は断じて許さない。

この不当な決定を多くの人に伝え、世論のうねりを作るべく、私はこれからも声を上げ続けます。

②（川崎）

私は、京都地裁判決では、「避難の相当性」が認められましたが、大阪高裁控訴審では、「原発事故収束宣言後の避難には避難の相当性がない」という判決が下されました。判決の根拠となる被害事実が変わったわけでもなければ、法律が変わったわけでもありません。岸田政権が原発再稼働に舵を切ったから、司法が政権を後押しする判決を出したとしか考えられません。三権分立がないことを白日の下にさらした判決でした。

司法に訴えてきたはずの私が、もはや、司法を国際社会に、市民社会に訴えなければならぬというこの現実ですが、まだ、絶望はしていません。ここで諦めたら必ず国は同じことを繰り返すに違いありません。

私は、これからも、原発事故のもたらした被害事実と被害者救済を訴え続けるとともに、政権や東電と癒着し、憲法にも良心にも従わない司法のありさまをも民意に訴え続けます。

③ (小林)

住んでいた場所が汚染され、生活を人間関係をめちゃくちゃにされ、いざ、避難しても、避難先の住宅を奪われ、健康不安を口にする風評加害者扱いされバッシングされる。人権侵害されまくり司法に訴えても紙切れ1枚で門前払い。『ふざけんな』です。

基本的人権が尊重されない。三権分立していない。健康、生活、住まい、自己決定権など生活の全般にわたる人権を脅かされたままの状態です。黙って引き下がるわけにはいきません。裁判は負けてしまいましたが、原発事故は終わっていないし、私たちの闘いも終わってはいけません。『このままやられっぱなしでたまるか！』という思いです。

笑われても、バカにされても1人1人の尊厳を守るため、蹂躪された権利を取り戻すためこれからも闘い続けます。国に原発事故の責任があることを最高裁が、世の中が、日本政府が認めて謝罪するまで決して諦めません。

④～4. まとめ (福島)

1月22日、最高裁は私たち原告の、そして福島から逃れてきたすべての人の人生を、「上告棄却」というわずか数行の紙切れで切り捨てました！

この決定は、単なる判決ではありません。司法が自らの役割を放棄し、加害企業と政府の盾となった、恥ずべき「暴挙」です！

最高裁の裁判官たちよ、あなた方の良心はどこへ行ったのですか！

私たちは、奪われた故郷、壊された家族の絆、消えない不安の中で生きてきました。私は法廷でこう訴えました。

「被告国は、司法にまで権力を駆使し懐柔させ餵ちゃんを与えます。どうか、裁判所におかれましては、裁判官としてのご自身の良心とのみ対話し、原告一人一人の命と向き合って判断してくださいように」

しかし、彼らはそれさえも無視した。彼らが守ったのは「命」ではなく、原発推進という「国策の論理」です。社会通念を完全に無視したこの判断に、私は断固として抗議します！

ですが、みなさん！

彼らが門を閉ざそうとも、私たちの闘いはここからが本番です！

司法が真実から目を背けても、歴史と私たちが、原発事故の責任を問い続けます。

これから続く下級審の裁判官たちに、今ここに集う1,000人のこの怒りを突きつけましょう。「社会通念とは何か、人としての良心とは何か、司法の独立を忘れるな」と、私たちが突きつけ続けるのです！

原発事故被災地から京都へ、そして全国へ。

原発事故を過去のものになどさせない！

加害責任をうやむやにはさせない!

この社会の理不尽を、私たちの手で、この声で、一人ひとりの力で、必ずひっくり返しましょう!

最高裁が腐っていようとも、この会場に集まった私たちの魂は腐っていません!

原発のない未来を、被害者が報われる社会を、私たちは絶対に諦めない!

これからもともに声を上げ続けてください! ありがとうございました!